

## 《きっずぽけっとミニ通信 NO. 238 2025年5月発行》

お子さんの入園、入学、進級等で新しい出会いもあり、ちょっぴり緊張の4月から1ヶ月がたちました。新しい環境にも少しずつ馴染んできたころでしょうか。大人も子どもも、また一步踏み出していけたらいいですね。頑張りすぎずにね。



さて今月は236号に引き続き、佐々木正美先生の子育てコラムから「しつけ」について、お伝えしたいと思います。

臨床心理学者、佐々木正美先生からのアドバイスです

Q しつけは何歳から始めたらいいですか？

A しつけは①「他者を思いやる心を育てるため」

②「社会のルールをまもれるように」

③「自分で自分を律する力を養うため」ですね

社会性、共感性は生後6か月～2歳頃まで

自律性は3歳頃までに育つと言われています。



今回はそのうち①についてお伝えしたいと思います。

子どもをしかったり、言葉で言い聞かせたりするよりも、もっと大切なことがあります。他者を思いやる気持ち、相手の痛みをわかる気持ちは「共感する力」と言われていますが、この気持ちは生後半年くらいまでに育つと言われています。こんなに早い時期に育つのですよ。生後1～2ヶ月くらいになるとお母さんの目を見てにっこり微笑みますね。お母さんの幸福感や喜びに共感しているのだと言われています。共感する力の芽生えですね。子どもと喜び共有こそが「共感力」「思いやり」の原点なんです。「そばにいてほしい」「いっしょに楽しいことをしたい」という「喜びの共有」こそが「共感力」「思いやり」の原点です。人は「喜びを共有する力」をもたなくては「悲しみを共有する力」も、もてないのです。

親との喜びを共有した経験が少ない子は、説明されても他者の悲しみは共有できないのです。（「育てにくい子」と感じたときに読む本 佐々木正美）

\*\*\* しつけは乳児期

から始まっていて、大人と共感しあう関わりの中で育つのですね。②③についても今後のミニ通信でお伝えしていきますね。（今月担当N）